

蒲郡市 学校プールのあり方

～子どもたちの より良い 水泳授業のために～

蒲郡市内の小中学校のプールは建設から長い年月が経過し、施設の老朽化が進んでいます。近年では、全国的にも学校プールの維持・管理、さらに廃止・集約化等も含めた議論が話題に挙がるようになってきています。

学校プールのあり方において、本市における学校プール施設及び水泳授業に関する現状と課題を整理し、一部の学校で新たな取組として試行している「民間事業者と連携した水泳授業」等の幅広い視点も含めた未来思考の方針を示すことで、子どもたちにとってより良い学校プール・水泳授業の環境構築に繋げていきます。

学校プールの現状と課題

蒲郡市の学校プールの現状から考えられる「配慮・検討すべき課題」について整理します。

プール施設の老朽化

蒲郡市の学校に設置されているプール施設の多くは、築年数45年を越え、老朽化が進んでいます。

維持・管理コスト

現状の学校屋外プールを維持(更新)し、継続利用する場合、多額の費用支出を要することが見込まれます。

安心・安全なプール環境

水中の事故に対するリスクだけでなく、近年では熱中症・日焼けなどの環境的なリスクも高まってきています。

学校現場の負担

清掃、機器保全、水質管理等のプールの管理に係る学校現場(教職員)の負担が非常に大きくなっています。

上記に示した内容などの様々な課題を解決するため、新たな取組として「民間事業者と連携した水泳授業」を展開している学校(塩津小学校・蒲郡中学校)の状況を踏まえつつ、今後の学校プール・水泳授業の方針を検討します。

「民間事業者と連携した水泳授業」とは

全国的に促進されている民間プール事業者と連携した水泳授業(以下、「民間プール方式」という。)のことで、現在蒲郡市では、「民間の屋内プール施設で、教職員と民間インストラクターが協働で指導を行う水泳授業」を実施しています。

他自治体では、学校プールや公営プール等に民間インストラクターを派遣してもらい、派遣先で指導する方法も実施されています。



「写真:民間プール方式での授業の様子(塩津小学校)」

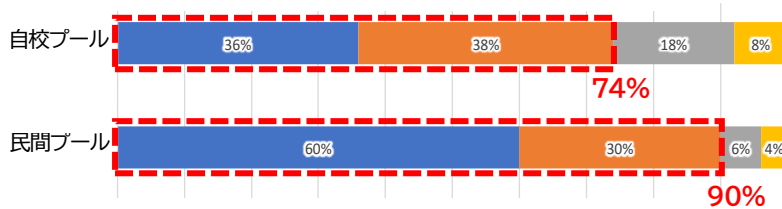
児童・生徒・保護者アンケート

令和4年度に児童(小5)・生徒(中2)及びその保護者を対象に水泳授業に関するアンケート調査を行いました。

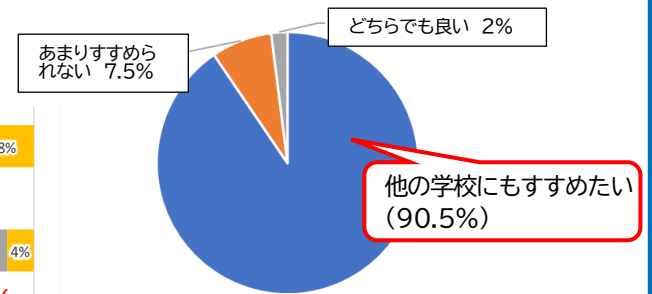
アンケートでは、民間プール方式について好意的な評価が多く、民間プール方式を経験した児童・生徒・その保護者からは「ほかの学校にもすすめたい」との回答を多くいただきました。

○自校プール実施校より民間プール方式実施校の方が、水泳授業に対する好意的な評価の割合が多い

- 「楽しみ」「満足」「良い」
- 「どちらかといえば、楽しみ」「どちらかといえば、満足」「どちらかといえば、良い」
- 「どちらかといえば、楽しみでない」「どちらかといえば、不満」
- 「楽しみでない」「不満」



○民間プール方式実施校の9割以上が、民間プール方式を「他の学校にもすすめたい」と回答



民間事業者との連携授業の効果

「民間プール方式」を行う学校(自治体)が全国的に増加傾向にあります。民間プール方式実施校の教職員や先進自治体へのヒアリングから、民間プール方式については、より質の高い指導により泳力向上に繋がること、安全性に係る不安等が軽減すること、など多様な効果があると分かりました。

塩津小学校・蒲郡中学校の教職員の声

- 泳力レベルに合わせ、民間水泳指導員を配置する授業実施が可能で指導効果が高い
- 事故や熱中症等の心配が軽減されている
- 児童生徒の泳力のみならず、教職員の指導力も向上している
- 移動や見学者の対応が今後の課題になる

民間プール方式導入の先進自治体の声

- 泳力が確実に向上している
- 当日の気温、水温、天候に関係なく実施が可能
- プール監視員が常駐するので、監視体制が万全
- 教員の業務負担軽減・児童生徒の安全性が向上
- 経費縮減(施設維持管理費、水量、水質管理用の薬品等)につながる

水泳授業の実施方法の整理

県内プール運営民間事業者へのヒアリングを実施し、その結果を踏まえ、蒲郡市全ての小中学校において、民間プール方式(屋内・温水プールを活用する実施方法)の実現性を検証しました。検証の結果、実現のためには新たに2つのプール拠点(屋内・温水プール)の設置が必要ということが分かりました。

民間事業者の意見・考え方

- 水泳授業の民間連携については、関心が強く、積極的に関わりたい意向がある
- プール施設(民間)の提供は行いたい意向はあるが、移動距離を踏まえると、対応可能な事業者(エリア)は限定される
- プール拠点に、民間指導員を派遣するパターンも対応できる

民間プール方式の実現性の検証

- 現在、蒲郡市内の民間プール事業者は1社で、1つのプール施設では必要授業回数を確保できないため、全ての小中学校の受入れはできない
 - 授業時間確保のため、プール拠点までの移動に要する時間は、10分程度に抑える必要がある
- ⇒受入れキャパシティー、移動時間の観点から

「2つの新規プール拠点」の設置が必要

概算事業費の整理・比較検証

民間プール方式を推進するにあたり、授業効果の向上や教職員の現場負担軽減の視点だけでなく、

「財政的な視点」においても、どの程度の効果(もしくは負担)があるか検証する必要があります。集計期間(50年間)にかかる概算事業費を算出し、実施方法パターン別に比較します。

- 学校プールを継続利用する従来プール方式の場合の事業費は、約55億円(プール更新・改修に係る整備費、維持管理費)がかかることが見込まれます。
- 民間プール方式の場合の事業費は、新規プール拠点整備費、水泳指導補助委託費、バス移動費、維持管理費なども含め、約51億円がかかることが見込まれます。
- 財政的な視点においても、「民間プール方式」の水泳授業の取組は、合理的な実施方法と考えられます。

民間プール方式 「約51億円」

新規プール整備費 14億円
民間指導委託費 25億円
バス移動費 6.1億円
維持管理費など 6億円

従来プール方式 「約55億円」

プール整備費 47.6億円
維持管理費 7.6億円



学校プールのあり方(方針)

「アンケートの意見」・「教職員の意見」・「民間プール方式の実現性の検証」・「概算事業費の整理」などを踏まえ、今後の学校プールの方針については、下記のとおりとします。

- ① 水泳の授業形態は、民間活力を導入する「水泳指導補助委託」で実施する。【ソフト面】
- ② 学校のプール施設については廃止(使用停止)し、屋内プール施設(民間プール施設・新規プール拠点)を活用し、水泳授業を実施する。【ハード面】
- ③ 教育の平等性から、全ての小中学校で「①」及び「②」(民間プール方式)の展開を推進する。

■ 方針の展開イメージ 「3エリア プール拠点 水泳授業実施プラン」

～中央エリア(民間プール) & 東・西エリア(新規プール2拠点)～

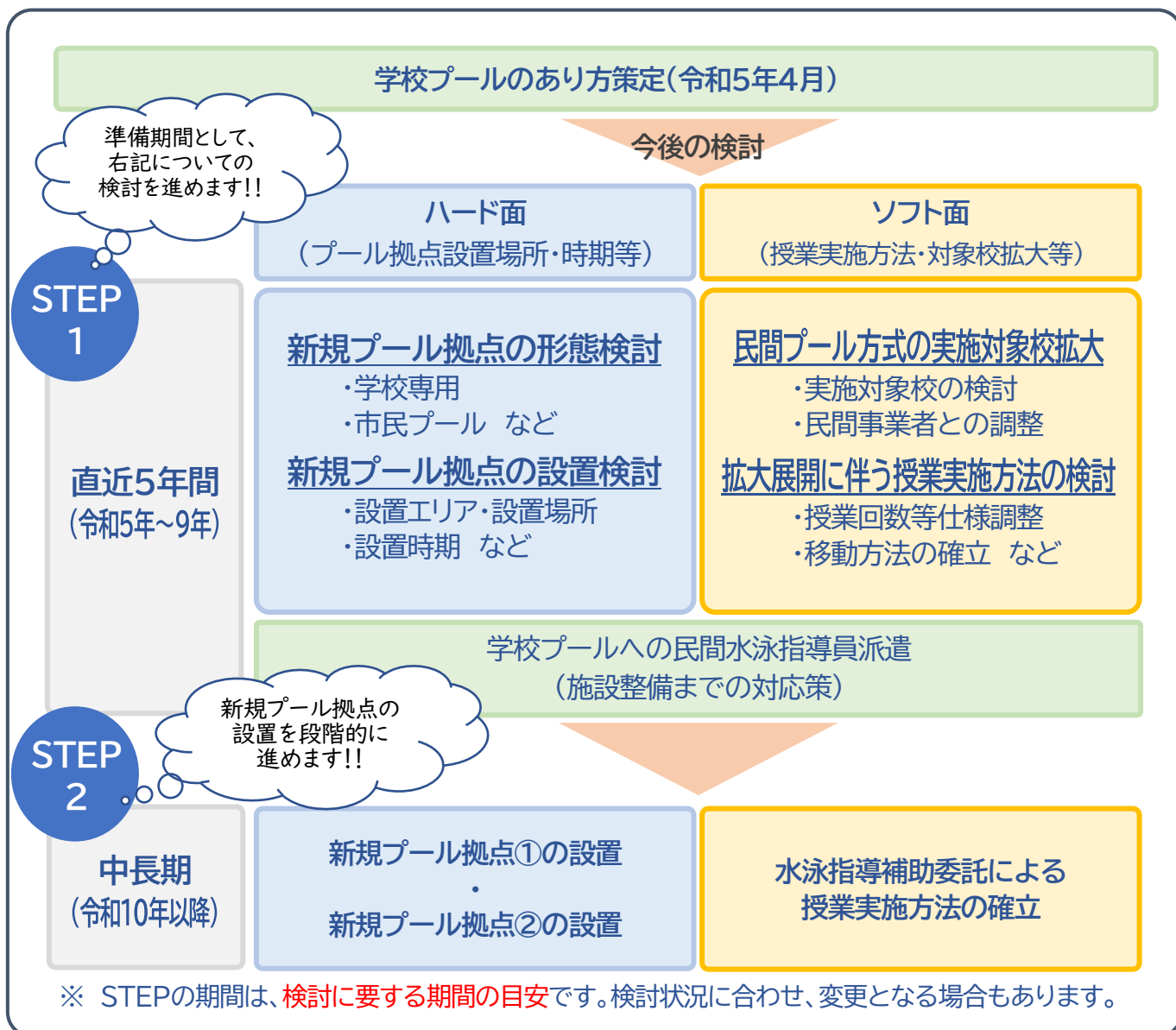


※学校がどこのエリアに属するかの設定についてはイメージであるため、運用時のエリア設定とは異なる場合があります。

方針実現に向けての今後の取組

- STEP1を準備期間として様々な検討を行い、STEP2で「検討」に基づいた事業の推進を行います。
- ハード面の取組としては、新規プール拠点の形態(学校専用・市民プールなど)や設置(エリア・時期)に向けた検討を進めていきます。なお、2拠点(東エリア・西エリア)の設置については、段階的に整備することも想定されます。
- ソフト面の取組としては、ハード面の整備までに、民間事業者と連携した水泳授業の実施対象校を拡大しつつ、より良い業務仕様や運用方法の確立に努めます。

■ 今後の進め方のイメージ



蒲郡市学校プールのあり方【概要版】

発行・編集：蒲郡市教育委員会 教育政策課

愛知県蒲郡市旭町17番1号 TEL：0533-66-1219

発行年月 令和5年4月